

## トランプ旋風余波

アメリカの新大統領トランプさんの言動が、世界を揺るがせている。アメリカファースト、あるいはトランプファーストを問題にする人がいるが、ファースト自体は問題ではない。日本人だったら誰だって日本ファーストであろうし、我々一人一人は自分ファーストだ。小池都知事は小池ファーストだし…。

我々が大きな余波を受けるのは、入国審査の厳しさだ。それだけでなく、前々からここまでやらなくても、と思うくらいチェックは厳しかった。アメリカ行き、あるいはアメリカを経由する場合、スーツケースの鍵はかけないこと、という注意が旅行会社から通達されたのは随分前のはなしだ。通関の際、係官からの開けるようにいわれ、相対でスーツケースを開けて見せるということにイチャモンをつけるつもりはない。しかし、どこかで抜き打ちにチェックされ、そのときスーツケースに鍵がかかっていると、鍵をこわしてでもケースを開けるらしい。ぼくがご一緒した方でも、ターンテーブルで荷物を受け取ったら、鍵をこわされていた例がある。トランプ旋風が招来するなんて予測していなかったもので、いつどこでのときだったか分からないでいるが、みんなで憤慨したことは記憶にある。

2001年1月下旬、パタゴニアを訪れた。帰路はブエノスアイレスからマイアミ経由で成田に帰国。航空会社はアメリカンエアだったが、空港でチェックインから乗機するまでセキュリティチェックが何回もあった。手帖に「AAはチェックが非常に厳しい」と書き記している。チェックは、「厳しければ厳しいほど、安心安全の確度が上がるんだから善し」と、その厳しさを甘受したのに、同じ年の9月11日、飛行機は乗っ取られ、貿易センタービルに突っ込まれてしまった。

以降、アメリカのチェックはさらに厳しくなった。それが今回のトランプ発言でさらに厳しくなる。中東・アフリカの七ヶ国の国民のアメリカへの入国を一時禁止する大統領令は一時差し止められ、大統領令で無効化したビザも有効になり、難民の受け入れも再開されると新聞報道にあった。しかし、入国審査は長蛇の列であるらしい。

案の定、厳しかったチェックが、9・11でさらに厳しくなり、トランプ旋風でさらに厳しくなって長蛇の列、なんていう話を聴かされると、アメリカ方面に出かけたくなくなってしまう。しかし、である。チェックが厳しくて長蛇の列になるのがうっとうしいからといって、アメリカ行きを断念してしまっただけではトランプ大統領の思うつぼであると思う。

乗るかそるかの問題が生じたとき、そる方を選択する日本人が多いような気がする。そってしまったのは、問題は解決しないと思うのだが…。長蛇の列と同時にテロも心配だが、いまや日本国内だってテロを免れる保証はない。恐るべし、トランプ旋風の余波である。